

1、活動及び事業名称

にしなり☆あそぼパーク P r o j e c t

2、活動及び事業内容

子育て・子育て支援のための3事業（あそぼパーク・ぴよちゃんバンク研修事業・ほっとサロン・あん）ジョイント事業

3、団体情報

団体名 にしなり☆あそぼパーク P r o j e c t 所在地 577-0003 大阪市西成区天下茶屋北1-4-6
TEL 06-6632-7020 FAX 同上 担当者 西野伸一

4、具体的な活動及び事業報告

（1）事業概要

子育て・子育て支援の活動を広く地域の協働で行い、子育て・子育てにやさしい町にしなり＝虐待ゼロの町にしなりの実現に向けて以下の3事業に取り組んだ。①公園での遊びをツールとした多世代のつながりづくりと子どものあそびの環境づくりの取り組み“あそぼパーク”の開催。

②いつでも、どこでも、みんなで子育てを合言葉に、子育て・子育て支援を行うにあたっての支援者やボランティア養成のための講座“ぴよちゃんバンク研修事業”の開催。

③発達が気になる子どものその保護者のサロン活動“ほっとサロン・あん”の開催を行った。

（2）3事業の取り組み

○あそぼパークの開催

西成区の公園を会場に年間3回あそぼパーク（あそパー）を開催した。

2013年5月26日（日） あそパー子ども元気まつり開催

南津守中央公園で地域との協働で、冒険あそびや体験型ワークショップ、そして官民協働での取り組み（西成区市民協働課・環境事業局・西成消防署）や地域の団体セレッソ大阪のサッカー体験などが企画された。来場者は1000人以上の区民が来られ地域における新たな支え合いのきっかけとなる取り組みを行った。

2013年8月31日（土） あそパーみずあそびまつり開催（雨天中止）

西成公園で、地域の協力のもと「公園をウォーターパークに」の掛け声で様々な水にまつわる企画をたて、日常都会では経験できないようなあそびやワークショップを企画し、つながりづくりとともに、子どもたちの遊ぶ権利の保障を目指して取り組んだが雨天の為残念ながら中止となる。今回の企画は、次回開催に向けて継続する運びとなっている。

2014年1月19日（日） あそパー くう ねる あそぶ～野外料理～

西成公園を使い、火を使った取り組みを行う。公園ではたき火やボール遊びまで禁止になっている現在の大阪市の現状の中、行政の理解と運営者の工夫で子どもたちが安全に火を使い、学ぶ体験を企画、実施した。立ちかまどのワークショップをはじめ、消防体験、そして防災の視点から社会福祉協議会や行政の協力でマンホールトイレ体験など生きた学びに取り組んだ。

また、地域協働の視点からは、地域の大衆食堂が料理教室を開き子どもと実際にふれあいながら野外料理を楽しんだ。当日の参加者は非常に寒い環境の中300人以上の参加とつながりが見られた。

○機関紙あそパーNEWSの発行

あそぼパークの目指す目的や活動の広報を行うためニュースの発行をした。

○ぴよちゃんバンク研修事業

不適切な養育をする親の抱える問題やその親のもとで生活する子どもの抱える問題への理解を深め、要保護児童対策地域協議会や民生委員・児童委員協議会また社会福祉協議会等と連携を図りながら、親や子どもが抱える困難や問題の本質を知り、現状を踏まえた具体的な支援のあり方や問題解決に向けて必要な手立てや仕組みを多様なテーマから学び、子ども地域で支える包括的な支援のあり方及び子育て・子育て支援のあり方を広く市民に啓発するとともに、研修で積み重ねた学びを支援につなげていくための研修やシンポジウムを開催した。

- ◆児童虐待の現状と課題～親の抱えるしんどさ～
- ◆西成区子育て・子育てシンポジウム「官民協働でつくる西成区の子どもの居場所」
- ◆親子ではぐくむ愛着の絆～こどもの生きる力のみなもと～
- ◆愛着と愛着障がいについて～愛着の修復とその対応～
- ◆子どもの性暴力被害の実態とその対応
- ◆発達応援講座 お子さんとのよりよいかかわり方 3回連続講座
- ①発達を知ろう ②具体的なかかわり方 ③学習、学校生活について
- ◆西成区子育て・子育てシンポジウム「官民協働でつくる西成区の子どもの居場所」
- ◆「その後を生きる」～傷つきながら生き延びること～
- ◆子どもの貧困と包括的な仕組みづくり
- ◆つまづいている子どもの理解と支援のヒント 2回連続講座
- ①子どもの発達について 具体的なかかわり方 ②子どものニーズに応じた教育・保育
- ◆西成区にプレイパークをつくらうワークショップ「遊育」

○発達が気になる子どもとその保護者のサロン「ほっとサロン・あん」

○ほっとサロン・あんの開催 ○パパくらぶの開催

開設日：毎月第3土曜日 午後 1：30～3：00 相談随時 学習会等は別途開催

対象：就学前の親子（在宅・入所(園)不問）

（就学後すぐに打ち切りではなく、学校での様子や過程の状況など見ながら相談は継続していく）

あそびの場、お話し場の場、学びの場で構成して実施。

就学前の子どもたちにとって生活の中心である「遊び」。裏返せばこの中に操作性、理解力、コミュニケーション力、運動機能等々子どもの「発達像」が凝縮されている。継続的にかかわるスタッフ・ボランティアが仲立ちとなり、子ども同士のトラブルの解決や様々な感情表現を言語化していくように援助している。子ども同士のトラブルの大半はその子の“つもり”を言語表現できないために起こってくる。トラブルの双方につくスタッフ・ボランティアが本人の“つもり”を言語化したり、一方相手側の“残念”とか“悔しい”気持ちを言語化した丁寧なやりとりを重ねていった。子どもたちのそれぞれの成長もあって徐々にトラブルになることは減少してきた。参加している子どもたちは、一日の流れを理解してきており、“遊びへの固執”なども少なくなってきた。これには子ども自身の成長もあるが、後述するおはなしの場を通じて親側からの子どもに対する働きかけが上手になってきたことと大きく関連してきている。おはなしの場はピアサポーターがコーディネーターとしてグループでの話し合いを進めている。一か月の間に起こる変化、気になっていること、関わりに困っていること、不安に思っていることなどを話せる場として大きな意味がある。話題に取り上げることや一部の人だけの話し合いにならないように、予め一か月間のノートを提出してもらっている。子ども自身は日常それぞれの保育所等の集団で生活しているが、キーとなる母親の精神状態のあり方が大きく左右することもある。同じような悩みを抱えた保護者同士だからこそ安心して話せることも多く、そうした解放感から新たに

“子どもに向き合おう！”という気持ちがあきわき出ているように感じる。一緒に参加するオブザーバーは、出てくる話題の中から、客観的に問題を捉えながらアドバイスしている。不安を取り除くためにはより具体的にその保護者自身ができるようなアドバイスを与えられるよう意識している。また、個別特有な話題もあるが、問題の根っこは共通していることも多いのでできるだけ一人ひとりが自分の問題として持ち帰ることができるように意識している。講習会や制度等々の様々な情報を伝える場としての意義は大きい。ただ子どもの成長には“大きな筋道”はあるものの「個別性」があり、そこに“母親”と“当人”という「関係」の中で育まれている。一つの方法が A 君にうまくいったからといって B さんにそのまま通用するとは限らないことも多い。伝える時にその内容も含める中でどのように取り入れたらよいか…まで話せればより効果的かとも感じる。また、ほっとサロン・あんの取り組みを通して、研修や学習会等の情報の共有や保護者のニーズをききながら毎回のサロンに反映できるよう心がけてきた。スタッフは毎回のサロン終了後、全体で振り返りを行うことで子育ての中で感じる親の思いや悩み、子どもの成長・発達とともに変化する悩みを知ることや子どもの発達段階を意識しながら関わりの工夫についてなど SV にアドバイスを受けながらともに学びを重ねてきたと言える。

